

原発事故時に伊丹市が受け入れる、おおい町名田庄地区

車の放射能除染は、水を使わず拭き取りだけ（南丹市美山長谷運動広場）

【伊丹市の回答】

- \* 伊丹市は絶対に大丈夫という車と人を受け入れることになっている
- \* 拭き取り除染を変える方法はないのか、おおい町・福井県・兵庫県に確認する



12月26日、伊丹市の危機管理室に申入れに行きました。予定の時間を超えて、約1時間半の申入れとなりました。市民の参加者は、兵庫・大阪から7名、そして伊丹市の<sup>おむつる</sup>大津留<sup>もとむ</sup>市議も参加されました。今回の申入れは、大津留市議のご尽力によるものです。

伊丹市危機管理室からは3名の出席でした（大谷主幹、河阪主幹、岩村副主幹）。

原発事故時に伊丹市が受け入れるのは、おおい町の名田庄地区（2,500名）と本郷地区（2,000名）の住民です。名田庄地区住民のスクリーニング（汚染検査）・除染場所は、京都府南丹市の美山長谷運動広場です。8月26日の防災訓練でもこの場所が使われました。この広場はすぐ近くに住宅があります。地区住民からは、水を使った除染で出る汚染水によって、広場や川が汚染されることを危惧する意見が出されていました。そのため福井県は、水を使わないことを条件に、スクリーニング候補地と決めてしまいました（3頁地図参照）。

今回の申入れでは、伊丹市（川西市も同様）が受け入れる車両や住民が、拭き取り除染だけで伊丹市に入って来ることになり、伊丹市にも汚染が拡大されるために、候補地から外すように求めてほしいと要望しました。おおい町の他の地区や高浜町住民のスクリーニング場所は綾部パーキングエリア横のあやべ球場です。ここでは、一昨年も今年8月の防災訓練でも流水を使った除染訓練が実施されました。



美山長谷運動広場での除染訓練 2018.8.26

私たちは10月15日には、おおい町に申入れを行い、美山長谷運動広場はスクリーニングの候補地から外すように求めていました。町の担当者は拭き取り除染（簡易除染）も国のマニュアルで認められていると繰り返すだけで、伊丹市には伝えなければと話していました<sup>※1</sup>。

8月の美山長谷運動広場と伊丹市での防災訓練の視察、10月のおおい町への申入れを踏まえて、今回伊丹市に出かけました。



あやべ球場での流水を使った除染訓練 2016.8.27

◆伊丹市は、拭き取り除染だけということを知った

私たちの質問・要望書は既に11月29日に提出していました<sup>※2</sup>。今回の回答では、拭き取り除

※1 おおい町申入れ報告 [http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/ooi\\_rep20181015.pdf](http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/ooi_rep20181015.pdf)

※2 伊丹市宛の質問・要望書 [http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/itami\\_q\\_req20181226.pdf](http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/itami_q_req20181226.pdf)

染だけでバスが伊丹市に入ってくることは、私たちの質問書で初めて知ったとのことでした。8月の防災訓練の前には知らされていなかったそうです。

その後、12月20日に防災訓練の反省会（連絡調整会議）があり、おおい町・福井県、伊丹市・川西市・兵庫県が一つのブースで話しをし、その時に、おおい町・福井県から拭き取り除染だけだという説明があったとのこと。伊丹市は、美山長谷運動広場には行ったことがないそうです。

#### ◆「拭き取り除染を変える方法はないのか、おおい町・福井県・兵庫県に確認する」と約束

伊丹市は今回の申入れで「絶対に大丈夫という車と人を受け入れることになっている」と回答しました。しかし、国が認めている拭き取り除染は、タイヤとワイパーだけの測定と除染しか行わず、流水での除染とは効果が全く異なることを伝えました。参加者は、塩害等を避けるため、遠方に出かけた後は自家用車を洗車するのは当然のこと、ましてや放射性物質を除染するのに拭き取りだけとは信じられないと発言し、市の担当者はうなずいていました。



京都府南丹市の美山長谷運動広場  
2018. 8. 26防災訓練会場

拭き取り除染では、「絶対に大丈夫」という保証はありません。伊丹市は検査・除染を済ませたという「通過証」がある場合にだけ受け入れるとも答えました。しかし、福井県が発行する「通過証」は、氏名・日付・検査場所が書かれているだけで、検査の測定値の記載はありません。住民の検査も代表検査で、バスに乗車している「代表者」を検査し、その人が基準値以下なら他の同乗者も基準値以下とみなされます（滋賀県の場合は、住民全員の検査を行い、各人に測定値が書かれた結果が渡されます）。検査の基準は 40,000cpm (120Bq/cm<sup>2</sup>) ですが、これは甲状腺被ばく線量で 300mSv に相当し、放射線管理区域外に物を持ち出す基準 (4 Bq/cm<sup>2</sup>) の 30 倍で、学校の体育館等の避難所はホットスポットになってしまうこと等も伝えました。市の担当者はメモをとりながら聞いていました。避難所になる 24 の学校等の施設には、拭き取り除染だけという話は伝えていないとのことでした。



避難バス等が「絶対に大丈夫」をどうやって確保するのかと問うと、最初は「関西広域連合にも影響するので慎重に判断したい」と回答していましたが、「拭き取り除染を変える方法はないのか、おおい町・福井県・兵庫県に確認する」と約束しました。避難者の安全を守り、伊丹市に汚染を広げないため、美山長谷運動広場をスクリーニング場所から外すよう、しっかりと対応してもらいたいです。

#### ◆在宅の要援護者を受け入れることは知らなかった。安定ヨウ素剤の備蓄はしない。火山灰問題で国に意見を言う立場にはない

要援護者の受入れについては、「福井県内で受け入れることになっているので、伊丹市は準備する必要がない」と回答しました。しかしそれは、施設に入居している高齢者や病院に入院している住民のことです。在宅の要援護者は基本的に伊丹市にも避難することになりますが、そのことは知らなかったようで、今後検討するとの回答でした。

安定ヨウ素剤の事前配布を求めました。伊丹市の 2017 年版避難計画では、兵庫県が実施した放射性物質拡散シミュレーション結果を基に、今後安定ヨウ素剤の備蓄等について検討していく

旨が記載されています。これについては、国や兵庫県の指針で「屋内退避で十分」となったため、安定ヨウ素剤の備蓄はしない、このことを来年度の改訂版で示すとのことでした。参加者は、福島原発事故で子どもたちに甲状腺がんが多発していること、これを防ぐためには安定ヨウ素剤の事前配布が必要なこと等を訴えました。また、近隣の篠山市は事前配布を実施しているため、情報を得るために篠山市を訪問してほしいと要望すると、即答はできませんと言うのみでした。

火山灰問題については、運転許可（設置変更許可）では火山灰層厚評価は10cmとなっていますが、越焔調査結果から25cmであると原子力規制委員会は結論づけました。しかしそれでも原発の運転を認めたまます。これについては、意見を言う立場にはないとの回答だけでした。

全体的に、国や県、周辺自治体と歩調を合わせるという姿勢でした。そのため、住民に最も身近な市役所は、市民に目を向けて、市民の安全のために行動してほしいと強く要望しました。

2018.12.28

避難計画を案ずる関西連絡会 参加者一同

おい町 住民避難マニュアル（原子力災害）21頁より

